

のアルバム

▼ 8月4日 小篠原



高校生の就職活動を支援

野洲ロータリークラブ（田中良隆会長）が地域社会に奉仕しようと地元高校生の就職活動を支援するため就職模擬面接を行いました。

この活動は19回目となり、同クラブ員が面接官役を務め、約10分間本番さながらの雰囲気の中、参加した生徒たち（36人）は緊張した表情で面接官の質問に受け答えしていました。

この模擬面接を活かし、希望する企業へ就職できるようこれからの就職活動頑張ってください！

めざすは全国優勝！！

野洲キッズスポーツ少年団と滋賀野洲ボーイズが滋賀県大会で優勝、全国大会に出場することとなり、市役所で激励会が行われました。

決意表明では、野洲キッズスポーツ少年団キャプテン田頭宏紀さんが「一戦一戦チーム一丸となって悔いの残らないような試合をしたい。」、滋賀野洲ボーイズキャプテン袋本慎さんが「日本一を目標に日々努力してきました。滋賀の代表として優勝旗を持って帰ることができるよう、一戦一勝で頑張りたい。」とそれぞれ力強く宣言してくれました。

両チーム共、日々取り組んできた練習の成果を発揮し、チームワークで優勝を勝ちとってください！

7月29日 市役所



▼ 7月20日 市役所



復興には若い力が不可欠です

様々な被災地でボランティア活動をしてこられた中村寿男さん（三上）が熊本地震の被災地での活動報告のため市長を訪問されました。

中村さんは、災害復旧活動において、実体験や、地元の人々が中心となって活動することの大切さを感じておられ、その上で「若い人にもっと積極的にボランティアに参加してほしい。」と強く語っておられました。

万一、災害に見舞われたとき、若者が先頭に立って周囲を引っ張る姿があれば、被災された人々を何より勇気づけるものとなるのではないのでしょうか！

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

持ち回りで伝えられる古文書

古文書は、個人の家や、村（自治会）、神社、寺院などに残されたものがありますが、なかには、行事の当番や、総代などの役員が順送りで伝えてきたものがあります。こういった伝え方は「持ち回り」とよばれ、道具類と共に当番の家が引き継いで預かる慣わしです。

写真のものは、江部（野洲市永原）のある一組の神明講しんめいこうに持ち回りで伝わる箱で、帳面などの記録類が収められています。引き出し付きの専用木箱には、蓋の表に「神明講帳入箱 嘉永四年四月吉日」の墨書があり、嘉永4年（1851）、江戸時代末期のものであることがわかります。箱の横側の墨書は7人の連名と「仲間物」と記し、これが共有品であることを示しています。箱の底裏には、箱を作った行合村（行畑）の人の名も記されていました。

神明講は、伊勢講ともいい、伊勢参宮やその信仰のために結成された、娯楽や親睦を目的とした仲間の集まりです。この講では、毎年正月の25日に宿とよばれる当番の家に参加し、床の間に「お伊勢さん」の掛軸をまつり、酒食を共にする慣わしです。また、代表者による「代参」や、講全員による「総参り」の伊勢参宮が行われてきました。歴代の帳面には、当番の名前、料理の買い物の品目もみられ、当時のくらしの一端を知ることができます。また、地元の人に講の組織や行事の様子を聞くと、文面を解説するだけではわからなかったことが判明し、全体像や詳細が見えてくるのがよくあります。例えば、箱に書かれた構成員の名前は、聞き取りによって現在のどの家にあたるかが全てわかりました。

昔の人々が自筆の文字で書き残した資料は、他にはない唯一の貴重な記録であり、ぜひとも大切に保管いただきたいと思います。また、箱にも年代や名前が記されていることが多く、なるべく元の状態のまま伝えていくことも大切です。博物館には古文書担当の学芸員もおり、機会があれば年代や内容を説明していますので、お声がけください。

（博物館学芸員 行俊 勉）



神明講の帳入箱



100歳おめでとう

100歳の誕生日を迎えた鈴木まゆさん（野洲）を山仲市長がお祝いに訪問しました。

大正5年7月25日生まれのまゆさんを、ご家族の皆さんでお祝いされていました。

市長の訪問に「ありがたいことです。」と感謝されていました。

これからも元氣でお過ごしください。

▼7月25日 野洲



安心安全に暮らせるまちに

野洲市および守山市老人クラブ連合会と守山警察署の3者が「交通事故・犯罪被害防止に関する協定」を締結しました。

滋賀県下では、高齢者の交通死亡事故や詐欺事件などが多発していることから、今後3者が安心・安全に暮らせるまちづくりを目指し、被害防止活動に取り組まれます。

▼7月15日 守山警察署

